

登場人物: 山中先輩(男)、春陽(はるよ)(女)

【ボイス録音するパート】

※女性パートとの間隔2-3秒ほど空けて、録音してください。

※キザなモテ男の役

山「春陽ちゃーん。お待たせ、待った！」

春「あ、山中先輩。全然待ってないです」

山「じゃあ今日もうち行こっか？」

春「あの！たまには外で食べたいんですけど...」

山「え？」

春「いやいつも家でUberっていうのも。ちょっと...」

山「春陽ちゃん、僕は1分1秒でも2人きりで居たいんだ。二人の神聖な時間を下界の者に邪魔されたくない...」

春「山中先輩...」

山「家、来てくれるかい...」

春「行くー。私もろともイーツされにいくー」

山「ありがとう」

春「でも、ハッキリ好きって言ってもらってないし。あんま会えないからちょっと不安で」

山「春陽ちゃん」

春「え？」

山「僕の君に対する想いを表すには、どんな言葉を用いても至極薄っぺらく感じるんだ。適切な言葉が見つかるまで、待ってもらってもいいかな」

春「待つー。夜のボディランゲージで感じ取るー」

山「ありがとう」

春「でも最後に一つだけ確認させてください。私って、本命の彼女ですか...？」

山「春陽ちゃん！」

春「はい？」

山「君はステーキは好きかい？」

春「ええ好きです」

山「寿司、焼肉...」

春「どれも好きです」

山「そういうことだよ」

春「それってつまり...。私、高級食材と肩を並べてるー？」

山「そうさ」

春「光栄ですー！」

山「だから、月に2回しか会わない。毎日だともったいないからね」

春「そう言うことか！納得ー！」

山「さ、家行こう」

春「はい！」

山「心配だから、終電前には帰ってね」

春「うわー、私めっちゃ大事にされてるー」

